

# 令和7年度全国高等学校総合体育大会 「審判員報告」

C 2

女子審判長 木村幸代

## 1. 採点上打ち合わせた事項（監督会議での報告事項も含む）

### （1）適用規則の確認

採点規則 2025 年版変更規則 I、女子体操競技情報 1 号及び全国高体連制定の高校適用規則を適用する。

### （2）採点指針の確認

採点指針に則り、美しい姿勢での演技を採点上の最重要項目とすること。  
各技の姿勢欠点はもちろん演技全体を通した身体の姿勢や足先の美しさに欠ける演技は厳密に減点し、美しい姿勢での演技との差を明確化させること。

### （3）Dスコアへの問い合わせについて

まずは直接D 1 審判へ口頭で質問をし、意見の相違がある場合は書面を審判長に提出する。問い合わせの時間に関しては、基本的には次の種目に移動するまでの間、最終演技者については、次の種目のタッチウォームアップの時間内に対応をすること。検証用のビデオはないため、再検証はできないことの確認。

### （4）タッチウォームアップ（競技直前練習）について

**【予選】** 1組最大6名（チーム4名＋個人2名）

VT：1人2本

UB：チーム3分20秒、その後個人各50秒

BB：チーム2分、その後個人各30秒

FX：3分

**【決勝】** 1組最大5名（4名＋種目別通過者1名）

VT：1人2本

UB：チーム3分20秒、個人各50秒

BB：チーム2分、個人各30秒

FX：チーム・個人ともに2分30秒

### （5）出血の対応について

出血があった場合には、速やかに競技スタッフまたは救護係へ連絡をすること。  
競技の進行に関わる場合はD 1 審判へ申し出ること。

## 2. 採点上起こった事項とその処理

### （1）演技中のコーチのかけ声（合図）

演技中に選手への指示となるようなかけ声や応援と見られるかけ声、拍手をする監督がいたため口頭注意にて対処した。

## (2) 競技中の演技台での練習

国内競技会ではマット上が演技台となるため、助走路を含むマット上での練習は演技中、採点中できないことになっているが、練習をしている選手がいたため口頭注意にて対処した。

## 3. その他特記事項・意見・感想等

島根県浜田市で行われた今大会は、連日の猛暑にも負けない熱気溢れる開催となりました。多くの観客、大きな声援は選手の力となっていたように感じます。そして参加選手、監督をはじめ関係者の皆様のご尽力により、すべての競技を無事終えることができました。採点業務においても、タイトなスケジュールではあったもののスムーズに業務をすることができ、予定されている時程に遅れることなく進めることができました。得点集計システムに不具合は発生せず、担当者の皆さんが演技中に迅速なサポートをしてくださったことがスムーズな業務に繋がったと思います。関係者各位に改めて感謝申し上げます。

パリオリンピックが終わり、採点規則が新しくなりました。今大会より2025年版の採点規則の適用となりましたが、採点の最重要項目として採点指針に掲げられていることはこれまでと変わりありません。膝・つま先はもちろんのこと、身体のすべてに意識が行き届いている「美しい姿勢での演技」これを目指して欲しいと思います。今大会、日々意識をして練習を積み重ねてきたであろう演技がとても多く見受けられました。個々の技だけではなく、立っているとき、ポーズをしているとき、歩いているときすべてに求められる「美しい姿勢での演技」を今後も選手自身が大切にして欲しいと切に願います。

「美しい姿勢での演技」や「表情を含め表現力豊かな演技」は、会場にいるすべての人を感動させるものです。技の成功だけではなく、観衆を魅了することができる演技を目指し、高校生たちがさらに活躍してくれることを心より願っています。

## 跳馬

D1 審判員 香月あゆみ

### 1. 採点上打ち合わせた事項

#### (1) 採点指針の確認

体操競技情報1号の採点指針に則り「Dスコアの高い跳躍技の実施」「跳躍全体にスピード感があり、高さや距離を伴うダイナミックな実施」「着地の先取りができた高い体勢での安定した着地」の3点を重視し、各跳躍の理想像を持って採点を行うことを確認した。

第1空中局面での身体の姿勢、膝の曲がりや脚または膝の開き、支持局面での腕の曲がり／肩角度等の技術不良、着地の姿勢に注視し、各局面において著しい技術不良や、危険を伴うような未完成な跳躍、ダイナミックさに欠ける跳躍に対しては、第9章「減点表」、第10章「種目特有な実施減点」の項目を有効に使用し、厳密に減点することを確認した。

変更規則Iにおいて「グループ1の跳躍技のみ」に適用される種目特有な実施減点の確認。 【追加】支持局面 「支持が長い -0.10/0.30/0.50」

「頭が器械にあたる -1.00」

第2空中局面「背中が器械にあたる -1.00」

【変更】第2空中局面「ダイナミックさに欠ける -0.10/0.30/0.50」

## (2) 線審の任務確認

練習回数のカウント、ラインの踏み越しの判定の確認。コーチからライン減点の再確認の要求があった際に備え過失の状況を記録することを確認。

## 2. 採点上起こった事項とその処理

「台上前転」1件（予選）、審判長に報告し無効（0.00）と判断した。

## 3. その他特記事項・意見・感想等

今大会は「前転とび（Dスコア 1.6）」から「前転とび～前方伸身宙返り 1 1/2 ひねり（Dスコア 5.4）」と技の難易度の差は大きく、幅広い選手層でした。予選に出場した選手の中で最も多く実施された跳躍技は「屈身ツカハラとび」で 69 名（約 27%）でした。次に多い跳躍技は「伸身ツカハラとび 1 回ひねり」で 28 名（約 11%）、その他 Dスコア 4.0 以上の跳躍は以下の表のとおりで、高い Dスコアを目指した跳躍技が多くなっているように感じられました。その中でも、ダイナミックかつ安定した着地にまで完成度を高めている選手は、9.00 以上の高い Eスコアを獲得することができていました。その一方で、不安定で未完成な跳躍も数多くあり、第 1 空中局面での身体の反りや腰角度、膝の曲がり、脚の開き、第 2 空中局面での高さ不十分、身体の姿勢が不正確（伸身宙返りで身体が一直線でない、膝・つま先が伸びない、脚の開き、伸身姿勢が保てない等）、着地などに減点があり、高い Dスコアを実施しても結果的に Eスコアが伸びない跳躍もありました。

<予選出場選手 250 名の最も多く実施された跳躍技、Dスコア 4.0 以上の跳躍技>

跳躍番号	跳躍技	Dスコア	跳躍人数(%)
3.20	屈身ツカハラとび	3.4	69名(約27%)
2.21	前転とび～前方屈身宙返り 1/2 ひねり	4.0	6名(約2%)
2.33	前転とび～前方伸身宙返り 1 1/2 ひねり	5.4	1名(約0.4%)
3.32	伸身ツカハラとび 1 回ひねり	4.4	28名(約11%)
3.33	伸身ツカハラとび 1 1/2 ひねり	4.8	2名(約0.8%)
4.32	ロンダート後転とび～後方伸身宙返り 1 回ひねり	4.2	28名(約11%)
4.33	ロンダート後転とび～後方伸身宙返り 1 1/2 ひねり	4.6	4名(約1%)

決勝に出場した 70 名の跳躍のうち、最も多く実施された跳躍技は「ロンダート後転とび～後方伸身宙返り 1 回ひねり」で 23 名（約 32%）でした。次に多く実施された跳躍技は「伸身ツカハラとび 1 回ひねり」で 18 名（約 25%）でした。高さやスピードがあり着地の先取りができた実施もみられ、Eスコア 9.00 以上の選手は 70 名中 17 名（24%）でした。

予選、決勝ともに「伸身ツカハラとび1 1/2 ひねり (Dスコア 4.8)」「ロンダート後転とび～後方伸身宙返り 1 1/2 ひねり (Dスコア 4.6)」を実施する選手が見られ、いずれも安定した着地で実施できていました。今後はさらに多くの選手が各局面においての正確さを追求し、ダイナミックで着地の先取りができる高いDスコアの跳躍に挑戦していただきたいと思います。

## 段違い平行棒

D 1 審判員 志村 美紀

### 1. 採点上打ち合わせた事項

#### (1) 採点指針の確認

体操競技情報 1 号に記載されている段違い平行棒の採点指針を確認。特に「美しく伸びた体線」「正確な技の実施」「振幅が大きいダイナミックな実施」ができています。演技を評価すること。また、指針に沿っていない演技に対しては、該当する減点項目に則り、Eスコアで明確に差をつけることを確認した。

#### (2) 変更規則の確認

「短い演技」とD審判団が判断をした場合は、技の数をE審判団へ口頭にて伝えることを確認した。

#### (3) アシスタントの任務の確認

計時の任務内容(個人・チームの練習時間の計り方、落下中断時間の計り方)を確認した。また、コーチから計時の減点の再確認の要求があった際に速やかに対応できるよう、過失はすべて記録しておくことを確認した。

### 2. 採点上起こった事項とその処理

入力の際によるEスコアの修正 1 件 (予選)、審判長へ報告しスコアを修正した。

### 3. その他特記事項・意見・感想等

今大会の予選 256 演技 (0.00 点の 6 演技を含む) におけるDスコア、Eスコアの分布は次の通りです。

【Dスコア】 5.5 以上 (最高 6.1) : 9 名、5.0~5.4 : 12 名、4.5~4.9 : 25 名、  
4.0~4.4 : 46 名、3.9 以下 : 169 名

【Eスコア】 8.00 以上 (最高 8.70) : 22 名、7.50~8.00 未満 : 30 名、  
7.00~7.50 未満 : 46 名、7.00 未満 163 名

予選全体を通して、高難度の技や組み合わせを入れつつ、「後ろ振り上げ倒立」で振り上げる過程の身体の姿勢、「空中局面を伴う技」で棒を握る際の身体の姿勢まで意識できている選手も多く見受けられました。また上位選手のみでなく、構成要求が満たせていない選手においても「美しく伸びた体線」を意識する選手が増えてきたように感じました。例えば「後方浮支持回転倒立」の完了角度が垂直から 45 度より下になり「技の完了角度が不正確 -0.50」の減点を伴う場合でも「身体の姿勢が悪い」「腕の曲がり」の減点がない実施

もありました。

段違い平行棒においては、技の完了角度に伴う減点が多くあります。現状、構成要求を満たすために「高棒懸垂～前振り 1/2 ひねり低棒とび越し～低棒倒立」「後方車輪 1 回ひねり」を実施する選手の多くが「技の完了角度が不正確」の減点を適用されています。しかし「技の完了角度が不正確」の減点のみが適用されている選手と、付随して「身体の姿勢が悪い」「腕の曲がり」「脚または膝の開き」等の減点が適用されている選手の演技は大きく違います。技を実施することのみに捉われず、どのような難度の技においても「美しく伸びた体線」を意識していただきたいと思います。また「美しく伸びた体線」で実施するためには「振幅が大きいダイナミックな実施」が欠かせません。振幅が小さい技においては「技の高さ（大きさ）が不十分」の減点が適用されます。正しい運動を追求し「美しく伸びた体線」で演技ができるよう練習を積んでいただきたいと思います。

## 平均台

D 1 審判員 黒須 真希

### 1. 採点上打ち合わせた事項

#### (1) 採点指針の確認

体操競技情報 1 号に記載されている採点指針を確認。特に「美しい姿勢」「正確な技の実施」「芸術性」を重視し、指針に沿った演技とそうでない演技との差を E スコアで明確に表すことを確認した。

#### (2) アシスタントの任務の確認

計時の任務内容を確認し、コーチから減点の再確認の要求があった際に速やかに対応できるよう、過失はすべて記録しておくことを確認した。

### 2. 採点上起こった事項とその処理

D スコアの修正 1 件（決勝）、審判長へ報告しスコアを修正した。

### 3. その他特記事項・意見・感想等

予選で実施された 248 演技のうち、E スコア 8.50 以上：3 名 (1.2%)、8.00 以上 8.50 未満：16 名 (6.5%)、7.50 以上 8.00 未満：34 名 (13.7%)、7.00 以上 7.50 未満：36 名 (14.5%)、6.00 以上 7.00 未満：65 名 (26.2%)、6.00 未満：94 名 (37.9%) で、E スコアの最高点は 8.70 でした。全体的に「美しい姿勢」「正確な技の実施」「芸術性」を意識して取り組んでいる選手、チームが増えてきている印象を受けました。引き続き高い E スコアの獲得を目指し、演技に入っている 1 つ 1 つの技を減点なく正確に実施すること、そして芸術性にも重点を置いて完成度の高い演技を目指していただきたいと思います。一方で、特に「美しい姿勢」「正確な技の実施」の 2 点について課題のある演技も見られました。ダンス系の跳躍技において、1 つの技で 0.50 以上の減点がある実施が一定数見られ、E スコアがのびない原因になっていたと思います。例を挙げると「前後開脚とび」「左右開脚とび」の 2 つの技は、構成要求、組み合わせ点、シリーズボーナスの獲得を目指して演技の中に入れていている選手が多い技です。これらの技が減点なく実施できなければ、組み合わせ点やシリーズボーナスを獲得できる構成にし、D スコアを上げようとしても、減点が増え E スコアが下がってしまいます。今大会では「前後開脚とび」「左右開

脚とび」と組み合わせて、0.10や0.20の組み合わせ点やシリーズボーナスを獲得しても、各技に0.50以上の減点があり、最終スコアが下がってしまう選手が多くみられました。「前後開脚とび」「左右開脚とび」は1つの例であり、それ以外の技も含めて基本的な技が減点なく行えることはDスコアを上げて、最終スコアを上げていくためにとても大事なことだと思います。

来年度のインターハイで多くの素晴らしい演技が見られることを期待しています。

ゆか

D1 審判員 大澤 都

## 1. 採点上打ち合わせた事項

### (1) 採点指針の確認

体操競技情報1号に記載されているゆかの採点指針4項目を確認し、ゆかの演技に何が求められているのかを理解したうえで演技全体の理想像を持って採点すること、変更規則Iにおいて減点幅の大きくなっている芸術性と構成の減点項目を確認した。指針に沿った演技とそうでない演技との差をEスコアで明確に表すことを確認した。

### (2) アシスタントの任務の確認

計時・線審の任務内容、コーチから減点に関する確認があった際に速やかに対応できるように記録しておくことを確認した。

## 2. 採点上起こった事項とその処理

音楽に関するトラブル4件（予選。音楽が流れない、他の音楽が流れる等）  
審判長に報告し、音楽係と確認後、改めて演技を開始した。

## 3. その他特記事項・意見・感想等

今大会、予選で実施された全演技251演技のうち（0.00点の演技は除く）、Dスコアで5.0以上を獲得できたのは17演技（6.8%）、4.5以上5.0未満が53演技（21.1%）、4.0以上4.5未満が69演技（27.5%）、4.0未満が112演技（44.6%）でした。最後のアクロラインの後にアクロバット系の技を実施し難度点が数えられない演技や、前方宙返り系の技をアクロラインの中で実施していないためにCRが獲得できない演技が複数あり、もったいないと感じました。

Eスコアでは、8.00以上獲得できたのは18演技（7.2%）、7.50以上8.00未満が44演技（17.5%）、7.00以上7.50未満が48演技（19.1%）、7.00未満が141演技（56.2%）でした。立ち姿勢から美しい演技、もう一度見たいと思う魅力的な演技がいくつもあり、芸術性を意識して取り組んでいる選手、チームが増えている印象を受けました。今後も高いEスコア獲得のために、表情まで意識をして表現力豊かで芸術的な演技、常に美しく正確な技の実施による完成度の高い演技を目指していただきたいと思います。丁寧な実施を心掛けている演技がある一方で、アクロバット系の技での不正確な実施やダンス系の技での実施減点や芸術性の減点が多い演技も多く見受けられました。特に足先の意識がない選手が多かったように感じました。演技を開始したところから最後のポーズまで、技以外の部分も含めて常に指先、足先まで美しい姿勢での演技を意識していただきたいと思います。

以上